

伝え合う力を高める学習指導の追求

清水 絵里奈
国語科 石田 明美
端名 秀雄

1. テーマ設定にあたって

本校国語科では、平成14年度から「伝え合う力を高める学習指導の追求」をテーマとして、研究・実践を行っている。

昨年度は、「論理的な表現力と情緒的な表現力」という副題のもと、各学年で「受け入れやすい表現」と「その様子が一番感じ取れる表現」を調査した。そして、「コミュニケーション力を高める実践研究」を進めるために、「他者理解の能力」を「聞く能力」、「自己表現の能力」を「話す能力」と置き換えて考え、それまでの「書き言葉」に加えて「話し言葉」も意識しながら、「伝え合う力を高め」ていこうとした。まず、グループ活動を取り入れながら、同学年のクラスの中で、分かりやすく伝えるためにはどう話したらよいか、どういう聞き方をすれば相手の話を理解できるか等を念頭に置いて授業実践を行った。

日々の授業から生徒の様子を振り返ると、一斉授業の中での教師の問いかけに対して、どのクラスにも臆することなく挙手・発言する数名の生徒が存在する一方で、自分の意見を持ちながらも自ら積極的に発言することの苦手な生徒もいる。ただし、教師から指名して発言を促すと、ほとんどの生徒が何らかの形で発言できるというのが本校の実態ではないだろうか。発表の声の大きさや速度など話す基本的な要素だけでなく、発表の内容にも個人差があり、理由や根拠をきちんと説明したり、他の人の意見につなげたりして自分の意見を発表する生徒から、単語だけで済ませるといった生徒まで様々である。

また、生徒同士の交流の場面を見ると、例えば授業で作品の感想や作文などをお互いに発表し合ったり回し読みしたりする活動には意欲的に取り組み、自分と比較しながら、お互いの良いところを見つけ刺激し合うようである。そして、良いものに対しては自然に賞賛が上がり、友達から学ぼうという姿勢は高く感じられる。

このような生徒の実態を考えると、より積極的にコミュニケーションをとろうとする場の設定が必要であり、そのために異学年や異校種間交流授業が有効であろうと考えた。

今年度の本校研究の主題「共に学ぶ生徒の育成を目指して」に迫るためにも国語科では、「伝え合う力を高める」研究・実践を中心に据えていくことが大切であると認識し、平成19年度も上記のテーマを継続することとした。また、同学年だけではなく、異学年や異校種間交流授業を取り入れながら研究・実践を進めていきたいと考えた。

2. 異学年・異校種間交流授業のねらいと位置づけ

異学年交流を進めるにあたって、「どんな力をつけるか」、「同学年では出にくく、異学年交流で違いが出たり効果のある題材は何か」など、話し合いを重ねたがなかなか結論は出ず、かなり悩んだというのが事実である。国語科の特質として、学習内容に関しては、履修事項・未履修事項という境界が明確ではないため、交流授業における学年の差異が、発達段階によるものなのか、個人の感性や知的レベルによるものなのか、ということが曖昧な部分が多いように思われる。授業における課題としては、意図的に発達段階の差が顕著に表れそうなものを多く組み入れ、その部分に関する交流を深めていきたいと考えた。

国語科では、「伝え合う力」の育成に取り組んでいるので、どんな題材においても「なぜそうなったの

か]、「なぜそう思うのか」という説明をきちんとできるような手だてを講じていきたい。異学年でそういう理由を伝え合う活動を通して、本校研究の作業仮説「上級生と下級生による学びの交流が行われ、学習内容の深化、学び方の習得の促進、コミュニケーション力（自己表現力と他者理解力）の育成が期待できる」に迫れるのではないかと考えた。

今年度は第一歩ということで、まずすべての学年の組み合わせで、二つの授業を試みた。1年と2年、2年と3年、1年と3年それぞれの組み合わせで、それぞれの学年20人ずつ計40人のクラス編成で実施した。どちらも1時間扱いで、授業の中に、異学年の4人（各学年2人ずつで男女混合）グループでの活動を取り入れた。取り上げた題材は「敬語」と「短歌の鑑賞」である。「敬語」は、先輩・後輩それぞれの立場で「～のような場合にはどう言うか」をそれぞれの立場で考えさせた。「短歌の鑑賞」は、言葉を抜いた短歌を何首か提示し、抜いた言葉を考えさせながら鑑賞させた。

学年の組み合わせでは、やはり学年差の大きい「3年生」と「1年生」の交流授業がスムーズに感じられた。1学年の差ではお互いの遠慮から取り組みにくく、課題に対する考え方の違いもあまり実感できなかったようである。ただし、「2年生」と「1年生」の組み合わせは、2年生が今までの他教科の異学年交流では下級生として参加してきたので、今回初めて上級生として参加し、新鮮に感じた生徒もいたようである。

グループ内での話し合いの様子を見ると、簡単な自己紹介やアイスブレイキングを行ったものの、初対面の者同士ではお互いに緊張したり、遠慮があったりしてなかなか話し合いが活発にできない班が多かった。やはり、お互いが打ち解けて自由な雰囲気で見聞交換するには、段階を踏んだり時間が必要だと感じた。また、各班での話し合いの結果を全体で確認したが、異学年交流での班の話し合いの利点や異学年による差が見えにくくわかりづらかった。また、特に上級生のメンバー構成によって、話し合いの程度に差が出た。

そこで、二度目の実践では、それぞれの学年4人で班を作り、同学年同士のグループ活動のあと、異学年で話し合い活動をするという交流授業を3年生と1年生で行ってみた。

3. 異学年・異校種間交流授業を実践した成果や課題

今年度初めて異学年交流に取り組んでみたが、すべての学年での組み合わせで実践した結果、中学校では学年差の大きい3年生と1年生が適しているということを実感した。短歌の授業では、一度目は異学年のグループ活動、二度目は同学年同士のグループ活動のあと異学年での話し合い活動と、形態を変えて実践したが、後者の方が話し合いもスムーズで活発に行われ、課題に対する考えの学年の差も明確で分かりやすかった。しかし、後者のやり方では、異学年同士での直接のコミュニケーションの場はなく、交流授業としての物足りなさも感じた。

今後の課題として、異学年交流授業が国語科の学習指導においてどのような活用方法があるか研究し、目的に応じた交流の形態を工夫していかなければならない。

4. 異学年・異校種間交流授業の実践内容

- (1) 異学年交流授業実践Ⅰ「どんな言い方をするかな（敬語）…異学年グループ」
- (2) 異学年交流授業実践Ⅱ「短歌に親しもう…異学年グループ」
- (3) 異学年交流授業実践Ⅲ「どんな言葉が入るかな（短歌）…同学年グループ→異学年での話し合い」

(1) 異学年交流授業実践 I

異学年交流学習 国語科 学習指導案

平成19年6月20日(水)

第4限 1-3と3-3 指導者 端名 秀雄・清水絵里奈

第5限 1-2と2-3 指導者 清水絵里奈・石田 明美

第6限 2-4と3-4 指導者 石田 明美・端名 秀雄

1. 題材名 どんな言い方をするかな(敬語)
2. ねらい ・先輩・後輩の立場を意識した敬語の遣い方ができる。
 ・敬語を用いたいろいろな表現があることを知る。
3. 評価の観点及び規準
 - ①国語への関心・意欲・態度…敬語に興味を持って、意欲的に課題に取り組んでいる。
 - ②話す・聞く能力…どのような言い方をするかがきちんと伝えられている。
 - ③言語に関する知識・理解・技能…敬語表現にふさわしい言葉遣いができている。
4. 「他者とかかわる」「共に学ぶ」や「他者理解」「自己表現力」育成に関する学習活動について
 先輩・後輩という立場を意識して、それぞれの立場から相手への言葉遣いについて考えるきっかけを作っていきたい。特に、敬語を用いた中学生として自然な表現をそれぞれに考えさせたい。
5. 本時の展開

学習活動・内容	教師の指導・支援及び留意点	評価規準及び方法	時間
1. 敬語について知っていることを発表する。	・どのくらい知っているか挙手させたり知っていることを発言させたりして、本時の課題に関心を持たせる。		5
2. 本時の課題を確認する。	・先輩・後輩それぞれの立場で、各自にワークシートを記入させる。	①ワークシート ・ワークシートを記入しているか。	10
☆部活動の先輩に、次のような状況で話をするとしたら、どのように言いますか。 ①部活動を休むことを伝えるとき ②言ったことを聞き直すとき。 ③朝食に食べたものを聞くととき。			
3. グループで自分の考えた言い方を発表する。	・各学年2人ずつ4人のグループを作り、簡単な自己紹介をさせた後、それぞれの言い方を伝え合わせる。 ・話し合いで、最も自然な言い方を一つ選ばせる。	②観察 積極的に話したり聞こうとしたりしているか。 ⑤ワークシート 敬語を用いた表現を知っているか。	10
4. 各グループの発表を聞く。	・各グループが選んだ言い方を紙に書かせて、前で発表させる。(先輩・後輩一つずつ)		15
5. 授業の振り返りを行う。	・ワークシートに記入させる。		5

準備 ワークシート・白紙(A3)・マジック・磁石

異学年交流授業ワークシート

年 組 番 []

☆部活動の先輩に、次のような状況で話をするとしたら、どのように言いますか。

①部活動を休むことを伝えるとき。

自 []
先・後 []

②言ったことを聞き直すとき。

自 []
先・後 []

③朝食に食べた物を聞くとき。

自 []
先・後 []

④日曜日にしていたことを聞くとき。

自 []
先・後 []

⑤A先生が呼んでいたことを伝えるとき。

自 []
先・後 []

⑥試合に父親が来ると伝えるとき。

自 []
先・後 []

★部活動の後輩に、次のような状況で話をするとしたら、どのように言いますか。

⑦部活動を休むことを伝えるとき。

自 []
先・後 []

⑧言ったことを聞き直すとき。

自 []
先・後 []

⑨朝食に食べた物を聞くとき。

自 []
先・後 []

⑩日曜日にしていたことを聞くとき。

自 []
先・後 []

⑪A先生が呼んでいたことを伝えるとき。

自 []
先・後 []

⑫試合に父親が来ると伝えるとき。

自 []
先・後 []

☆以上のことから、言葉遣いについて自分が感じたことを書きなさい。

(先輩・後輩の違いを感じましたか はい・いいえ)

先輩・後輩と授業をして感じたことを書きなさい。

異学年交流授業実践Ⅰについて

国語科としての異学年交流の手始めに、とりあえずはさまざまな学年の組み合わせで生徒の様子や反応を確かめてみることにした。

異学年の組み合わせを考えると、極力他教科の時間割に支障を来さないように、時間割上並行して国語科の授業が実施されている異なる学年のクラスを組みあわせ、1年生と2年生、2年生と3年生、1年生と3年生の3パターンでの授業を試みた。各クラスを男女それぞれ半数に分け、(本校は各クラス男女各20人の40人定員)同じ時間帯に、各学年20人ずつの交流クラスを2クラス作り、それぞれの学年を担当する教師で1クラスずつ担当した。その際、扱う題材は同じものとした。

つまり、生徒たちにしてみれば、通常の国語科の時間に他学年の生徒が半数混じって授業をしているという形になった。

扱う題材については、なるべく生徒一人ひとりの知識量や能力の差ではなく、学年による発達段階の違いが明確になるものが良いのではないかと考えた。

まずは、「どんな言い方をするか(敬語)」という題材で授業を行った。異学年の組み合わせでは、必ず年齢差(先輩後輩という関係)が生じる。そのため、先輩・後輩それぞれの立場で、どのような言い方をするのが自然に出てくるのではないかと考えた。

授業形態は、40人を4人ずつ10のグループに分けて、グループ活動を取り入れた。一つのグループの中には、異なる学年の男女それぞれ1名ずつが入るようにした。

次のようなワークシートを活用して、部活動の先輩と後輩それぞれに言う場合という状況設定で、自分が先輩、後輩それぞれの立場で、どのような言い方をするかを答えさせた。

ワークシートの項目

☆部活動の先輩に、次のような状況で話をするとしたら、どのように言いますか。

- ①部活動を休むことを伝えるとき。
- ②言ったことを聞き直すとき。
- ③朝食に食べたものを聞くとき。
- ④日曜日にしていたことを聞くとき。
- ⑤A先生が呼んでいたことを伝えるとき。
- ⑥試合に父親が来ると伝えるとき。

☆部活動の後輩に、次のような状況で話をするとしたら、どのように言いますか。

- ⑦部活動を休むことを伝えるとき。
- ⑧言ったことを聞き直すとき。
- ⑨朝食に食べたものを聞くとき。
- ⑩日曜日にしていたことを聞くとき。
- ⑪A先生が呼んでいたことを伝えるとき。
- ⑫試合に父親が来ると伝えるとき。

ワークシートに記入された答えの例

☆部活動の先輩に、次のような状況で話をするとしたら、どのように言いますか。

- ①部活動を休むことを伝えるとき。
 - ・部活動を休みます。すみません。
 - ・用事があつて、部活動を休みます。
- ②言ったことを聞き直すとき。
 - ・もう一度言ってください。
 - ・すみませんが、もう一度言ってもらえませんか。
- ③朝食に食べたものを聞くとき。
 - ・朝、何食べましたか。
 - ・朝、何を食べてきたんですか。
- ④日曜日にしていたことを聞くとき。
 - ・日曜日、何してましたか。
 - ・日曜日は何をしていましたか。
- ⑤A先生が呼んでいたことを伝えるとき。
 - ・A先生が呼んでましたよ。
 - ・A先生が呼んでいましたよ。
- ⑥試合に父親が来ると伝えるとき。
 - ・試合に父が来ます。
 - ・試合にお父さんが来ます。

☆部活動の後輩に、次のような状況で話をするとしたら、どのように言いますか。

- ⑦部活動を休むことを伝えるとき。
 - ・部休むから。
 - ・部休むね。
- ⑧言ったことを聞き直すとき。
 - ・もう一回言って。
 - ・もう一度言って。
- ⑨朝食に食べたものを聞くとき。
 - ・今日の朝、何食べた。
 - ・今日の朝、何食った。
- ⑩日曜日にしていたことを聞くとき。
 - ・日曜日、何しとったん。〔方言形〕
 - ・日曜日、何してた。
- ⑪A先生が呼んでいたことを伝えるとき。
 - ・A先生が呼んどったよ（ぞ）。〔方言形〕
 - ・A先生が呼んでたよ。
- ⑫試合に父親が来ると伝えるとき。
 - ・試合にお父さんくるんやよ。〔方言形〕

- ・試合にお父さん来るげんて。〔方言形〕
- ・試合にお父さんが来るんだよ。

☆以上のことから、言葉遣いについて自分が感じたことを書きなさい。

- ・言葉の使い方が全然違う。
- ・後輩への言葉遣いは、あまり考えずに書けたけど、先輩へのは、自然にすらすらと書けなかった。
- ・後輩には方言がよく使われる。
- ・先輩には丁寧に、後輩にはフレンドリーに緊張をほぐすような表現を使っていた。

☆先輩・後輩と授業をして感じたことを書きなさい。

- ・やっぱり、後輩と授業をすると「自分がやらないとなあ」と思うことがあった。(2年生)
- ・どちらも控え目だった。(2年生)
- ・後輩はとてもかわいくて、楽しかったです。(2年生)
- ・緊張しました。(1年生)
- ・最近の後輩は、初対面でもタメ口が多い。(3年生)
- ・雑談が無い分、授業が進みやすい。(3年生)

考察

一時間だけの授業であったため、同じ班になった2つの学年の生徒たちが十分になじむ余裕のないまま活動だけが進んでしまった感じがする。そのため班の中でのコミュニケーションが十分ではなく、何のために同じ班に異なる学年の生徒を組み入れたのか、あまり意味のない組み合わせになってしまった。

ワークシートは、それぞれの項目に自分の答えを記入する欄と、同じ班の異学年生(先輩または後輩)の答えを聞き取って記入する欄を設けた。後者は、相手の言葉を聞き取って記入させるつもりであったが、ほぼ初対面どうしの集団(例外的にたまたま同じ部活動の部員どうしなどもあった)であり、話し言葉によるコミュニケーションはスムーズにはいかず、ワークシートを見せ合って相互に記入し合うという場面も見られた。

各班から、先輩・後輩それぞれの言い方を黒板に張り出させて比較したが、その段階になって初めて先輩と後輩の違いがはっきりしたように思われた。つまり、班活動の中では、コミュニケーションも十分ではなく、互いの持っている特性の違いについても理解しづらかったという結論を得た。

作業仮説(異学年交流を通して、上級生と下級生による学びの交流が行われ、学習内容の深化、学び方の習得の促進、コミュニケーション力の育成が期待できる。)に関しては、今一步の感があった。

今回は先輩・後輩という立場を意識させて、言葉の使い方について考えさせたが、出てきた表現には、先輩・後輩という立場による表現の差は顕著であったが、用いている表現そのものに学年による差と思われるものはみられなかった。

それもおおかた予想された範囲のことであり、それぞれが学びを通して深まったというところまではいっていないと思われる。

また、何よりも、国語科として重視しているコミュニケーションをするという点に関しても、不十分であったということが反省材料としてあげられる。

(2) 異学年交流授業実践Ⅱ

異学年交流学習 国語科 学習指導案

平成19年6月20日(水)

第4限 1-3と3-3 指導者 清水絵里奈
 第5限 1-2と2-3 指導者 石田 明美
 第6限 2-4と3-4 指導者 石田 明美

1. 題材名 短歌に親しもう(1時間扱い)
2. ねらい
 - ・短歌に関心を持ち、短歌作りに意欲的に参加しようとする。
 - ・歌に詠まれている情景や心情を想像し、空欄に言葉を当てはめたり、「上の句」に対する「下の句」を作ることができる。
3. 評価の観点及び規準
 - ①国語への関心・意欲・態度…短歌に関心を持って、意欲的に課題に取り組んでいる。
 - ②読む能力…情景や心情を想像し、歌のリズムを意識して言葉を選んでいく。
4. 「他者とかわかる」「共に学ぶ」や「他者理解力」「自己表現力」育成に関する学習活動について

それぞれの学年の既習事項を確認して、意見交換をさせながら短歌の言葉の豊かさにふれさせたり、言葉への見方を広げさせていきたい。また、それぞれが考えた言葉、作った下の句、実際の作者の作品を比較しながら、語句の効果的な使い方や、表現の美しさ・深さを読み味わわせたい。
5. 本時の展開

学習活動・内容	教師の指導・支援及び留意点	評価規準および方法	時間
1. アイス・ブレイキング 隣同士の自己紹介をする。	・教師自身も簡単に自己紹介し、場の雰囲気や和むように配慮する。		5
2. 短歌について知っていることを発表する。	・どのくらい知っているか挙手させたり知っていることを発言させたりして、本時の課題に関心を持たせる。		3
3. 本時の課題を確認する。			2
1. 有名な歌人の歌に詠まれている様子を想像して、()にふさわしい言葉を当てはめてみよう。 ①与謝野晶子「夏の(かせ) 山よりきたり 三百の 牧の若馬 耳ふかれけり」 ②北原白秋「昼ながら 幽かに光る (蛍) 一つ 孟宗の藪を 出でて消えたり」 ③笹 公人「落ちてくる 黒板消しを 宙に止め 3年C組 (念力) 先生」 ④永井陽子「梅雨晴れの ふとまばゆさを 増す空に モーツァルトの (靴音) がする」 2. 有名な歌人の「上の句」に、オリジナルな「下の句」をつけてみよう。 ②俵 万智「愛してる 愛していない 花びらの (数だけ愛が あればいいのに)」			
4. 課題1の短歌の情景や心情を話し合い、()に言葉を入れる。	・①の歌については全体で扱う。 ・②～④の歌については、ペア活動を取り入れ、全員に話す場を設定する。 ・ペア活動での話し合いを参考に、自分で考えた言葉を()に書かせる。 ・それぞれの歌について、列ごとに指名し、板書する。 ・作者の作品と比較しながら、簡単に解説する。	①観察 ・積極的に話そうとしたり聞こうとしているか。 ②ワークシートの記入 ・()に適切な言葉を当てはめているか。	10
5. 課題2の短歌の情景や心情を話し合い、下の句をワークシートに記入する。	・全体で話し合わせ、イメージをふくらませてから、個人の活動に入らせる。 ・机間支援をしながら、短歌作りの意欲を高める。	①観察 ・積極的に課題に取り組んでいるか。 ②ワークシートの記入 ・「上の句」に合った「下の句」を作っているか。	10
6. 4人グループになり、完成した下の句をお互いに回し読みし、お薦めの句を一つ選び、短冊に記入する。	・学年で違う色の短冊を準備し、学年による区別がわかるようにしておく。		5
7. 完成した下の句をお互いに鑑賞し合う。	・時間があれば、それぞれの作品の良さや作った意図など、意見交換する。		5
8. 授業の振り返りを行う。	・ワークシートに記入させる。		5

準備 課題(短歌)用紙, ワークシート(短歌・振り返り), 短冊用紙(色違い3種類)

異学年交流 国語科「短歌に親しもう」

() () 年 () () 組 () () 番 ()
() () 年 () () 組との交流

一・有名な歌人の歌に詠まれていた様子を想像して、() () にふさわしい言葉を当てはめてみよう。

①与謝野晶子

「夏の () () 山よりきたり 三百の 牧の若馬 耳ふかれけり」

②北原白秋

「昼ながら 幽かに光る () () 一つ 孟宗の藪を 出でて消えたり」

③笹公人

「落ちてくる 黒板消しを 宙に止め 3年C組 () () 先生」

④永井陽子

「梅雨晴れの ふとまばゆさを 増す空に モーツァルトの () () がする」

二・有名な歌人の「上の句」に、オリジナルな「下の句」をつけてみよう。

⑤俵万智

「愛してる 愛していない 花びらの () () () ()」

三・今日の授業を振り返って

①短歌作りを通して、学年の違いを感じましたか。

はい ・ いいえ

②先輩・後輩と授業をして感じたことを書きなさい。

③短歌について感じたことを書きなさい。

④機会があったら、また先輩や後輩と国語の授業をしてみたいですか。

はい ・ いいえ

最初の課題「有名な歌人の歌に詠まれている様子を想像して、()にふさわしい言葉を当てはめてみよう」については、ペア活動を取り入れて異学年の2人で相談する場を設定した。情景描写の歌が中心で事物の単語を当てはめるので比較的取り組みやすかったが、学年による差はあまり見られなかった。②の歌では「蛍」の他に「星」「月」「虫」、③の歌では「念力」は出ず、「金八」「エスパー」、④の歌でも「靴音」は出ず、「曲」「音楽」「音」「音色」などの言葉が挙げられた。

次の課題「有名な歌人の『上の句』に、オリジナルな『下の句』をつけてみよう」は、自分の考えを持ってない生徒が何人かおり、特に1年生で多かった。時間が短かったこともあるが、班の話し合いに参加できるように全員が個々の考えを持って取り組める課題の設定が必要であると痛感した。異学年の4人班になって完成した下の句を見せ合い、お薦めの句を選ぶ活動では、班によって話し合いの程度に差が出た。上級生がうまくリーダーシップを発揮しながら話し合いを進めている班では下級生も意見を出しやすく、うまくコミュニケーションをとっていたが、そうではないグループでは沈黙が続いたりしがちであった。

各班で選ばれた下の句は以下の通りである。班によって上級生のものが選ばれることもあれば、下級生のものが選ばれることもあり、全体場で提示した際に学年による差がわかりにくかった。

【1年と3年の交流授業】

「散りゆく姿に虚しさ感じ」「数で占う恋占い」「数え終わって一人大泣き」
「数だけつる好きな気持ち」「花占いで愛していない」「数をかぞえて恋占い」
「花ひらく日を夢見る恋愛」「枚数だけの愛がほしい」

【1年と2年の交流授業】

「結果が悪いとまたやり直す」「占いだけに左右されるな」「散りゆく様は悲しさ帯びる」
「残り一枚愛していない」「花占いも何度したやら」「最後と共に恋も散りゆく」
「枚数信じ花びらが舞う」

【2年と3年の交流授業】

「散ってはつる乙女心」「愛していないけどもう一度」「散った数だけむなしく積もる」
「散ったときにはむなしく思う」「最後の一枚愛していない」「占い信じる乙女心」
「もう一枚だけつけ加えたい」「最後の一枚引きたくないよ」「散った後には寂しさ残る」

今日の授業を振り返って、「短歌作りを通して、学年の違いを感じましたか。」という質問に対して、「はい」と「いいえ」で選択させたところ、「はい」と答えた生徒は以下ようになった。

「1年と3年の異学年交流授業」では、36人中30人（1年19人、3年11人）で83%

「1年と2年の異学年交流授業」では、39人中28人（1年20人、2年8人）で72%

「2年と3年の異学年交流授業」では、38人中20人（2年12人、3年8人）で53%

すべて同じクラスを使って実践したわけではないので単純に比較はできないが、いくつかのことが考えられる。まず、中学校に入学して3ヶ月足らずの1年生にとっては2年生も3年生も自分たちとは違う存在、さすが上級生と感じているということである。次に、学年の差が1学年しかない2年生は、上級生と授業をしても下級生と授業をしても違いを感じなかった生徒が多かったということである。特に2年生と3年生では、発達段階の上からもお互いの遠慮などで交流授業がやりにくく感じたようで、班での話し合いも全体的に低調であった。ただし、同じ1学年差でも2年生と1年生の組み合わせでは、今まで他教科の異学年交流では下級生として参加してきた2年生が、今回初めて上級生として参加し、新鮮に感じた生徒もいたようである。

先輩・後輩と授業をして感じたことを生徒の感想から拾ってみると、以下ようになった。

【1年】

<2年との交流>

- ・2年生の人は思いつくのが早かったりそれをしっかりまとめたりしてすごかった。来年は自分達も今の6年にきちんとしたところを見せることができるといいです。
- ・先輩の方が考えることが知的だと思いました。それから話を進めようとリードをしてくれたので、やっぱり上級生はちがうなあと思いました。

<3年との交流>

- ・やっぱり2年多く生きているだけあって、知識がたくさん頭の中に入っている気がする。
- ・先輩たちはいろんな短歌を知っていた。歌人もたくさん知っていてすごいと思った。
- ・私達とは違い、表現の仕方がとても工夫してあり、すごいと思った。
- ・先輩はとても大人っぽい事を考えていたのでそこが違うところだと思います。

【2年】

<1年との交流授業>

- ・1年生は頭がやわらかい。
- ・1年生の方が想像力が豊かでびっくりした。考え方も似ていたのであんまり学年の違いを感じなかった。唯一感じたことは1年生が敬語で話したこと。
- ・1年生は意見を持っていても恥ずかしいとかの理由でなかなか言えてなくて、そういう面から見ると去年に比べ自分達は成長できたかなと思いました。

<3年との交流授業>

- ・想像性が自分よりも豊かで、短歌を作るにしてもリズムが合い響きいいように作っていた。
- ・全体的に時間が短かったので何とも言えないが、先輩の発言が少なかったのも、あまり違いというものを感じられなかった。でもやはり知識はあると感じた。

【3年】

<1年との交流>

- ・後輩の穴埋めは少し幼い感じがした。まだ勉強していないかもしれないけど字余りなどもあった。
- ・先輩・後輩という年齢差は国語には関係ないと思った。感性豊かな子はすごいし、あまり豊かでない子もいる。

<2年との交流>

- ・3年も2年も違いがあまりない気がしました。
- ・短歌だから一人一人の個性が出ていて、初めて話す人のことが少し分かったような気がした。あまり違いは感じなく、短歌を作れた。

考察

1時間だけの授業であったため、異学年の班でのコミュニケーションが十分ではなく、課題に対する考えの学年での差もわかりづらかった。今後異学年交流を進めていくにあたって、班でのコミュニケーションが十分とれるようにするとともに、課題設定に関してはどの学年も自分の考えを持てるもの、そして学年で差の出るものを考えていく必要がある。また、異学年交流を進めていく上では学年差の大きい3年と1年が望ましいと考えられる。

(3) 異学年交流授業実践Ⅲ

異学年交流学習 国語科 学習指導案

平成19年7月18日(水)

第4限 1-3と3-3 指導者 端名秀雄・清水絵里奈

1. 題材名 どんな言葉が入るかな(短歌)
2. ねらい ・空白になった言葉を予想しながら、短歌を鑑賞できる。
 ・学年によって鑑賞のしかたに差があることを実感できる。
3. 評価の観点及び規準
 - ①国語への関心・意欲・態度…短歌に興味を持って、意欲的に課題に取り組んでいる。
 - ②話す・聞く能力…その言葉を選んだ理由がきちんと説明できている。
 - ⑤言語に関する知識・理解・技能…歌のリズムを意識して言葉を選んでいる。
4. 「他者とかかわる」「共に学ぶ」や「他者理解」「自己表現力」育成に関する学習活動について
 やや抽象的な概念を表す言葉を考えさせる課題で、中一と中三にどれくらいの差がみられるかを試したい。そこから、共に学ぶための次のステップの手がかりを見いだしたい。
5. 本時の展開

学習活動・内容	教師の指導・支援及び留意点	評価規準及び方法	時間
1. 短歌について知っていることを発表する。	・どのくらい知っているか挙手させたり知っていることを発言させたりして、本時の課題に関心を持たせる。		5
2. 本時の課題を確認する。	・短歌に空白部分を作ったワークシートに記入させる。(個人作業)	④ワークシート ・ワークシートを記入しているか。	10
☆次の短歌の()にあてはまる言葉を考えて書きなさい。(理由も) ①一年は短いけれど一日は長いと思っている(誕生日) ②親は子を育ててきたと言うけれど勝手に(赤い)畑のトマト ③まっさきに気がついている君からの手紙いちばん(最後)にあける			
3. グループで自分の考えた言い方を発表する。	・各学年2人ずつ4人のグループを作り、簡単な自己紹介をさせた後、それぞれの言い方を伝え合わせる。 ・話し合いで、最も自然な言い方を一つ選ばせる。	②観察 積極的に話したり聞こうとしたりしているか。 ⑤ワークシート 敬語を用いた表現を知っているか。	10
3. グループで自分の考えた言い方を伝えあう。	・各学年で4人のグループを作り、それぞれの言い方を伝え合わせる。 ・話し合いで、最もよいと思う言葉を一つ選ばせる。	②観察 積極的に話したり聞こうとしたりしているか。 ⑤ワークシート	10
4. 各グループの発表を聞く。	・各グループの代表に、各グループが選んだ言い方を紙に書かせて、理由を添えて前で発表させる。	歌のリズムにあった言葉を考えているか。	15
5. 授業の振り返りを行う。	・ワークシートに記入させる。		5

準備 ワークシート・白紙(A3)・マジック・磁石

国語 異学年交流授業ワークシート(1年・3年)

年 組 番

☆短歌の世界Ⅱ

次の短歌の()にあてはまる言葉を考えよう。また、なぜその言葉をあてはめたか、その理由を書こう。

*ヒント 短歌のリズムは5・7・5・7・7

① 一年は短いけれど一日は長いと思っている()

自分()理由

班()理由

② 親は子を育ててきたと言うけれど勝手に()畑のトマト

自分()理由

班()理由

③ 昨日逢い今日逢うときに君が言う()「だなそう()」

自分()理由

班()理由

④ まっさきに気がついていいる君からの手紙いちばん()にあける

自分()理由

班()理由

⑤ 「また電話しろよ」「待ってろ」いつもいつも命令形で()を言う君

自分()理由

班()理由

★この授業を通して(1年生・3年生)について感じたこと

異学年交流授業実践Ⅲについて

授業Ⅰ・Ⅱで、異学年のコミュニケーションが十分ではなかったという反省を踏まえ、改めて異学年の交流授業を実施した。学期末の慌ただしい時期で、時間的にもゆとりがなかったこともあり、実践Ⅱでも最も違いが顕著に現れた、年齢差の最も大きい1年生と3年生で実施した。

交流したメンバーは前回と同じであるが、こちらも1時間だけの授業という制約があったため、異学年の意見の交流がスムーズに行える方法がないかと考えた。その結果、小グループの中で意見交換させるのではなく、それぞれのグループは同一学年のメンバーとし、出てきた意見で異学年の交流をするという方法を用いることにした。

この方法だと、異学年でグループを構成する場合に比べて、グループの構成メンバーに配慮したり、自己紹介の時間などをとったりする必要がない。また、特に上級生に遠慮したり、上級生の意見に従ったりということが多くなりがちな下級生も、自分たちの意見を出しやすくなる。

ここで扱った題材は、「どんな言葉が入るかな（短歌）」というものである。交流授業Ⅰ・Ⅱの内容を振り返ってみて、国語科で扱う題材とそのねらいとしては、単に立場によって出てくる違いなどを知らせることよりも、作品の鑑賞などを通して感性的な面の交流をはかり、その違いを感じ取らせることの方が意義のあることだと判断した。

授業形態は、Ⅰ・Ⅱ同様40人を4人ずつ10のグループに分けたが、上で述べたとおり、グループ編成は、同一学年の男女2人ずつを1グループとした。

交流授業Ⅱの内容を受けて、学年の差が出やすいと思われる内容に修正し、次のような内容のワークシートを活用した。

ワークシートの項目

次の短歌の（ ）にあてはまる言葉を考えよう。また、なぜその言葉をあてはめたのか、その理由を書こう。

- ①一年は短いけれど一日は長いと思っている（ ）
- ②親は子を育ててきたと言うけれど勝手に（ ）畑のトマト
- ③昨日逢い今日逢うときに君が言う（「 ））だなそう（ ）
- ④まっさきに気がついている君からの手紙いちばん（ ）にあける
- ⑤「また電話しろよ」「待ってろ」いつもいつも命令形で（ ）を言う君

★この授業を通して（1年生・3年生）について感じたこと

ワークシートに記入された答えの例

①一年は短いけれど一日は長いと思っている () *誕生日

1年生

思いこみ
腕時計
月曜日
カレンダー
私達
クリスマス

3年生

カブト虫
お母さん
ほととぎす
アブラゼミ
金曜日
夏の虫

②親は子を育ててきたと言うけれど勝手に () 畑のトマト *赤い

1年生

実った
育つ
できた
とれる
とるな
食べる

3年生

育つ
育った
熟れる
生えてる

③昨日逢い今日逢うときに君が言う (「) だなそう () *久しぶり

1年生

逢いました
楽しそう
久しぶり
また明日

3年生

久しぶり

④まさきに気がついている君からの手紙いちばん () にあける *最後

1年生

大事
最後
始め
はやく
最初

3年生

最後
最初
大切
先
後

⑤「また電話しろよ」「待ってろ」いつもいつも命令形で () を言う君 *愛

1年生

ぐち
文
無理

3年生

私語
愛
夢

無茶
もの

うそ
もの

★この授業を通して（1年生・3年生）について感じたこと

1年生

3年生はすごくませている。（大人っぽい？）その点、1年生はまだ幼い。1年生はまだまだ発想が浅いところがありました。（男）

3年生は1年生とは違う発想のしかたをしているなあと思いました。経験とか知識の違いとかでも差が出るのかなと思いました。（女）

僕達では思いもつかない、少し大人な答えが出ていたのがすごいと思いました。（男）

3年生は発想も大人っぽくて、1年生とはぜんぜん違うなあと思いました。（女）

いろんな考え方があったとわかった。3年生は答えがほとんど同じで、1年生はいろんな意見があった。

3年生

1年生は物に対する視点が3年生とは少し違う。物事を別方向から見るとも良いと思う。（男）

1年生は3年生には考えつかないユニークなことを考えていてすごいと思いました。でも、愛とかそのあたりのことをよんだ歌は3年生の方が説明が上手かった。（女）

1年生はまだまだ未熟だなあと思いました。他学年との表現の違いが分かっておもしろかった。（女）

自分が1年の頃はどんなだったか気になる。2年間長く生きているので、年上らしい発想なのかなと思った。（女）

1年生は3年生よりいろんな経験が少ない分、言葉も出てこなかったんじゃないかと思う。普通の言葉は出てくるけど、恋愛系になると、1年生と3年生に違いがあった。（女）

考察

グループの中での異学年の交流はなかった。そのため、他教科での交流でもその形態に慣れた生徒の中には、「あまり交流ができなかった」という感想もあった。しかし、この時間のねらい「短歌を鑑賞し、学年によって鑑賞のしかたに差があることを実感できる」からすれば、この形態の方が学年の差が明らかにできたと考える。目的に応じた交流の形態を工夫していくことも必要であろう。

俵万智の短歌を使用した。①～④あたりまでは、1年生の方が自由な発想で答えもバラエティーに富んでいるが、正解も出ており、学年による差はあまり感じられない。

しかし、⑤になると1年生には「愛」と答えた者はおらず、3年生は多数の正解者がいた。3年生に知識があったとも考えられないことはないが、③の歌で3年全グループとも「久しぶり」だったことなども加味すると、男女の間柄をテーマとした内容の歌の鑑賞は、3年生が強いと言える。

生徒の感想を借りると、「恋愛系になると、1年生と3年生に違いがあった」ということになるが、これは明らかに発達段階の差であると思われる。ただ、このような差がどんな分野に関して顕著なのか、抽象的な概念全般について認められるものなのかなど、もう少しさまざまな角度から探してみたい。

そして何よりも、この異学年交流は、国語科の学習指導にとってメリットのあるものでなければ意味がない。どのような活用方法があるのかも今後の課題としておきたい。